



大野市教育委員会たより

令和元年6月6日発行 第1号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと考えておりますのでご理解とご協力をお願いいたします。

先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：5月28日(火) 午後7時～午後9時	次第	・教育長挨拶
場 所：開成中学校体育館		・1部 説明「大野市の教育について」
対象者：開成中学校保護者（出席者数8人）		・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎市の教育費18億、10%は、市全体の割合としては高いのか。
⇒ ■他市と比較すると、ほぼ同じ割合となっている。
- ◎学校の合併の話が出た一番の理由は何か。将来の子ども数が減っているからなのか。経費がかかっているからなのか。
⇒ ■1学級の人数が減ってきて、きちんとした教育を子どもたちにしてあげられないのではないかとという理由からである。
- ◎大学生で教員の資格を取ろうとしている子が、これから学校が合併になって先生が必要なくなるから大野市に戻ろうと思わないと言っている。小中学校を合併することは本当にいいのだろうかと思ってしまう。
- ◎学校の児童生徒数があまりにも少なすぎるのは良くないと思う。学校でいろいろな人に出会って、得られるものが大きいと思う。だから、ある程度の人数はほしい。
- ◎こんな人がいるんだ、こんな考え方があるんだ、たくさん知ること、こんな私でも、こんなことが出来るという心の成長をするためには、たくさんいるというのはすごく大事なことだと思う。
- ◎子どもが減り、1クラスの人数が少なくなりすぎてきた。もう少し多い方がいいのではないかと、1学年のクラス数が多い方がいいのではないかとという中で、学校再編の議論になったと思う。
⇒ ■文科省では小中学校において、1つの学校に12から18学級、つまり小学校では1学年2から3クラス、中学校で1学年4～6クラスを標準と位置付けている。
- ◎上庄中出身で、当時2クラスで65人だった。試験で頑張っても学校のレベルが高いため、開成で真ん中ぐらいの学力でも、上庄中では後ろから数えた方が早かった。勉強に関しては、学校が小さい、大きいに関係なく競争できると思う。ただ、個々の個性が突出している場合、その子を援護してあげられる環境ではなかった。高校に入り、クラスが増えた時に、こういう子たちがいるんだという個性を知ることができた。人数が多いという環境も大事なんだと思う。統合するのは悪いと思わないが、遠くに住んでいる子どもたちには負担になることが心配である。
- ◎小学校を支えているのは、じいちゃん、ばあちゃん。すごくパワフル。田舎の良さと思っている。
- ◎合併して登下校が大変だと思っても、パワフルなじいちゃん、ばあちゃんが助けてくれると感じる。
- ◎子どもが吹奏楽に入っている。開成が一番部員が多いが、それでも人数が少ないためパートのない楽器がある。他の学校はもっとないと思うので可哀想である。中学校が1つになると楽器も増え、合奏もできる

が、競う学校もなくなるので可哀想だと思うので、間をとるのが一番いいかなと思う。

◎パートのない楽器があると、演奏する曲が限られてしまう。

◎全然部活がない。

⇒ ■合同で部活をやっている場合もあるが、一緒に練習することがなかなか出来ない。

◎子どもが野球をしているが、部活でやりたい部に入れないのは可哀想と思う。陽明の子たちは軟式野球部の人数が足りないため、硬式野球をやるしかない。

◎開成ではバレーボール部の人数が足りないため、福井市に出た子もいると聞く。

◎住んでいる地域で学校が決まっているのか。

⇒ ■校区がある。特別な措置で変更することはある。中学校を自由に選ぶことは出来ない。

◎子どもの可能性が広がるように、安心して集中して学べる環境をつくってほしい。

◎ICTは学校に必要なのか。授業参観で見たが、先生が電子黒板に写したり、拡大したりしていたが、逆に気をとられてしまうのではないかと思った。なくても学習ができるのではないか。

⇒ ◎道徳を授業参観で見て、ICTで生の声や映像を聞いていたが、親の方が感動した。すごくいいと感じた。

⇒ ■ICTだけでは駄目であり、黒板や紙媒体の授業も必要と感じている。教師が使いこなさなければいけない。

◎教師はいろいろと覚えなければならぬため、大変であると感じる。部活動を減らしても働きすぎと感じる。親の要求が多いのかも。

⇒ ■保護者から見て、教員は働きすぎか。

⇒ ◎部活はもっとやってほしい。青春はここ。自分たちが覚えているのは、部活で汗をかいて真っ黒になって頑張ったこと。熱い先生はかっこいい。

⇒ ◎保護者もバックアップしていくことが必要と思う。

⇒ ◎学校の先生は、まじめで一生懸命だと思う。

⇒ ◎家庭でしっかりしないといけない部分を学校に任せていると思う。

◎自分の息子が、先生をしている自分の妹の姿や大野の先生などを見て、教員になりたいと思うようになり素晴らしいと思った。大野の先生は努力してくれていると感じた。

■今、全国的に問題になってきているのが、教員採用試験の倍率が下がってきていることである。教員になりたいと思う人が減ってきている。他県では倍率が1倍ない所もある。教員の仕事のイメージを変えてあげないと大変なことになる。

◎学校を再編しても、先生の数を減らさなければいいのではないか。

⇒ ■文科省は、子どもの数が減っても、学校に対する要求が増えているため、教員を減らさないように考えている。福井県では独自の施策で、40人1クラスの基準を下げて、子どもの学力や体力の向上を推進している。

■学級数があるということは、それだけ教員がいる。魅力ある教員は複数いないと育たない。学年同士で、教師同士で、学び合いができる。1学年1学級だと教師同士の相談ができない。そういう意味での学校環境も考えていかないといけない。

◎学級数が多いとクラス替えができる。社会人になればいろいろな

人と出会う。段階段階で、少しずついろいろな人と交わり、人間関係を築いていくことは必要だと思う。

■クラブ活動もでき、競争もでき、クラス替えもあり、学校が変わったときに他の学校の子と一緒にになれるのがいいと感じた。



◎クラブ活動の掛け持ちはできないのか。いい意味で世界が広がるのでは。

⇒ ◎開成では昨年、陸上の子がバレーの大会に出ていた。

◎学校が再編になっても、先生の数がある程度維持されて、子どもの能力を伸ばせる環境にあってほしい。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。